一部配水を来年夏に
阿賀野川浄水場の工事急ピッチ

ふえる一方の水需要に備え、市水道局では、中蒲原郡横越村に阿賀野川浄水場を、昭和五十年夏、完成をめざし建設を進めています。同浄水場の配水能力は一日七万トン、四十九年夏には三万五千トンを配水できる運びとなっています。

建設中の阿賀野川浄水場は、水源地を阿賀野川に求め、下、大形、木戸など新栗ノ木川と阿賀野川にはさまれた地区の十二万七千人に一日最大七万トンを給水しようというものです。

いま、阿賀野川にかかる横雲橋百五十メートル上流の堤防沿いには取水塔が、また、同塔から約四百メートル離れた六万三千平方メートルの用地には、浄水場が建設され、早くも浄水場独特の様相を呈しています。

工事の状況を水の出来る工程順にご紹介しますと……

取水塔は、コンクリート打ちも終わり内部塗装の段階に移っており約七〇%のできぐあいです。

取水塔からの表流水（一日七万七千トン）を受けとめる沈砂池は仕上げにはいり完成は間近です。

取水塔から沈砂地まで敷設される直径九百ミリの導水管は、現場に運び込まれ、十月から掘削作業が始まります。

沈でん池は鉄筋組みから型わく組み作業へと、またろか池は機械の搬入、取付けにかかっています。

完成すると地下にもぐってしまう配水池は（二万一千トン分）の半分はコンクリート打ちが終わり、残り半分は型わく組みの後半へと進んでいます。

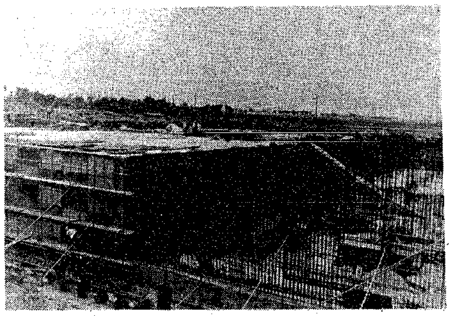
各家庭へと送り込むポンプ場は一階の鉄筋組みを行なっており、同浄水場の心臓部となる管理館は、一階のコンクリート打ちから二階部分へと進んでいます。

全般的な工事の進歩状況は、四十九年に配水する三万五千トン分の約五〇%となっています。

市には、青山浄水場（配水能力一日最大十五万トン）と鳥屋野浄水場（同八万トン）、長戸呂浄水場（同一万トン）の三つの浄水場があり、最大配水能力は一日二十四万トンとなっています。

しかし、市内ではすでに一日の給水需要量が二十万トン近くになり、来年には、この最大能力に迫ることも予想されます。

このふえる一方の水需要に備えて阿賀野川浄水場が建設されているわけですが、同浄水場が完成しますと、四つの浄水場を合わせて一日最大三十一万トンになり、今後の人口増や冷房装置などの増加を見込んでも、昭和六十年ころまでの水需要にこたえられることになります。


先々の給水需要に備え建設される阿賀野川浄水場

加入金制度を発足
水道 九月一日から

市水道局では九月一日から、新しく水道を申込まれる方、従来の水道管を改良される方から「加入金」を納めてもらう加入金制度を採用することになりました。

年々、ふえ続ける水道の使用者と使用量に対処するためには、先行投資で水道施設を拡張してゆかなければなりません。

このため、多額の建設投資をしますが、この投資を水道料金の原価の一部として使用者の皆さんから負担してもらっているわけです。

しかし、この投資を一率に料金とした場合、料金単価が高くなりしかも、現在の使用者の皆さんにとっては新しい使用者のための投資分まで負担することになります。

このような不合理を解消して料金の高くなるのを防ぐため、新しい使用者の皆さんから投資の一部を負担してもらい、新旧使用者の負担の公平を図るために生まれたのが加入金制度です。

◆加入金の対象

①水道を新設する場合②いままでの給水管の口径を大きくする場合（①②ともメーター口径が二十ミリ以上）

◆加入金の額

メーターの口径	加入金の額
20ミリ	6万円
25ミリ	10万円
40ミリ	25万円
50ミリ	38万円
75ミリ	83万円
100ミリ	151万円
150ミリ以上	管理者が別に定める

◆納入時期

水道工事を申込む時に納めてもらうことになります。いったん、納めた加入金は、次の場合以外はお返ししません。

▼水道工事の完成前に水道工事の申込みを取消した場合お返しします。

▼水道工事の申込み後に設計を変更したため加入金の額が変った時は設計変更申込みの際、差額を納入またはお返しします。

◆お問合わせ

西新潟の方は～水道局営業課（☎66－九三一一）

東新潟の方は～水道局東営業所（☎44－七一三一）

2,600区画の予定
太夫浜に墓地公園を造成
申込みは10月ころの見込み

好評を博した内野霊苑（墓地公園）に続き、このほど北地区の太夫浜に新しく墓地公園を造ることになりました。

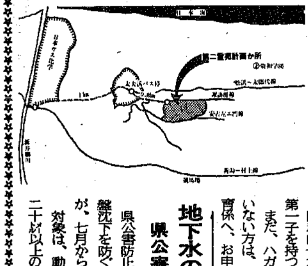
内野霊園が、昨年八月で千八百区画が満ぱいになりましたが、なおも市民の墓地需要が、かなり見込まれることから、市開発公社の手で新設されるものです。

現在、用地の買収が終わり、設計に取りかかっています。

総面積は約五万平方メートル、その中に墓地の数は二千六百区画の予定となっています。墓地公園ということで内野霊苑と同じように、花だん、緑地、あづまや、展望台、遊具施設、駐車場、管理事務所などが造られ、楽しいやすらぎの場となります。

工事は、ことしの秋ころから取りかかり、来年のお盆までに完成する予定です。

なお、申込み受付けは、ことし十月ころの予定です。



訂正のおわび

八月五日号一面「青年教室」記事中の東堀通りは一番堀通りの誤りでした訂正しておわびします。

第1期分 個人事業税 納期限8月31日

二歳児の両親へ
—家庭教育相談

二歳児の第一子を持つ親を対象に、ハガキ通信による家庭教育相談が、七月から始められています。

第二回目の八月は〝ことばのしつけ〟〝じょうぶに育てるコツ〟など、専門家による教育指針、十二項目にわたるアンケートなどが送られました。

二歳児は、人格形成上、きわめて重要な時期です。この時から、よりよい家庭教育を与えましょう。

対象は、昭和四十五年四月二日～昭和四十六年四月一日生まれの第一子を持つ親です。

また、ハガキ通信を受け取っていない方は、市社会教育課成人教育係へ、お申し出ください。

地下水の採取を規制
県公害防止条例改正

県公害防止条例が改正され、地盤沈下を防ぐため、地下水の採取が、七月から規制されました。

対象は、動力を用いて地表面下二十メートル以上の地下水を汲み上げ、吐出口の断面積（二つ以上の場はその合計）が、六平方cm以上のものです。

揚水設備を新設する場合、予め知事の許可が必要です。また、七月一日以前に設置したものは、九月二十九日までに届出てください。

これらの申請は、所定の用紙で新潟市長を経由して行なってください。

物見山土地区画整理事業計画を縦覧

物見山土地区画整理事業が、七月二十三日から始まっています。該当地区に、これから家を建てられる方、土地を買われる方は、市区画整理課へ、お問合わせください。

☆施行期間 昭和五十八年三月三十一日まで

☆施行地区 河渡字浜谷内、字小池山、字下道山、字下中道山、字上道山、字物見山、字まんじゅ山の各字の一部、物見山町の一部、浜谷町の一部、小金町の一部

☆縦覧場所 市区画整理課内

熱戦たけなわ後半へ
第1回市長杯争奪 サッカーナイターリーグ

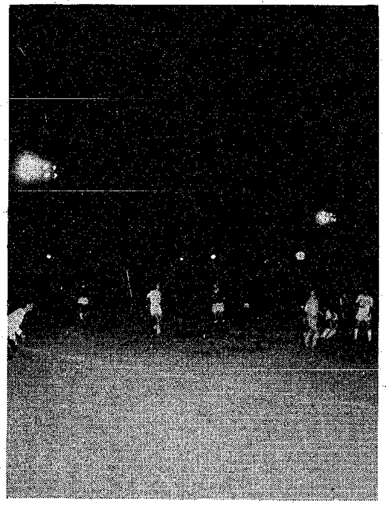
今年の夏は、好天に恵まれ、暑さも厳しく、日中は、うだるような日が続いています。

そんな暑さも何のその、体力の限度をかけて、サッカーの技を競っている人々があります。

それは、「第一回市長杯争奪サッカー選手権大会」で市長杯をかけて競っている市内の八サッカーチームです。

これは、補助競技場を使ってのナイターリーグで、職場のサッカー部あり、寄せ集めのチームありとさまざま。

体力と技術を尽しあう姿は、暑さどころか、すがすがしさを感じさせます。


夜空の下、暑さをふきとばす熱戦は続く…

中小企業団地をゆく ▷3◁
新潟製材工業協同組合
—地震を契機に設立
年間総売上90億円
廃棄物は共同処理

昭和三十九年六月の新潟地震で、信濃川沿岸に集中していた製材工場は、壊滅的損害をこうむりました。

そこで、これを機会に、県や市の指導を受けながら、中小企業近代化資金助成法にもとづく工場集団化を計り、十二月に、十四企業で、協同組合を設立しました。

国道七号線沿いの寺山地内七万五千平方メートルの敷地に、近代化された大工場群があります。

ここの団地で扱う、年間二十五万立方メートルにおよぶ大量の原木は、ほとんどが外材で、米材五〇%、ソ連材四〇%、南洋材一〇%となっています。

これら外材は、新潟西港から主として筏にして、通船川を曳航し、団地前面にある、十三万二千平方メートルの県営貯木場に、係留、保管されます。

原木は、自動式送機車に乗せ、帯鋸で、大割りされます。この作業は、テレビで緩急の速度を観察しながら、すべてボタン操作で行なわれています。良い製品を、むだなくとるかとらないかは、ここで決まる重要な部門であるため、とくに、綿密な頭脳と熟練が、要求されています。

大割りされた素材は、ボタン操作によって、選別区分けされ、自動搬送機に乗って、次の工程へとそれぞれ送られていきます。

一定の寸法の柱とか、土台などの角物や、板細物などは、テーブル帯鋸盤でしあげられます。

できあがった製品は、選別のうえ、一定の数量に結束されて、製品置場へと送られていきます。

産業廃棄物である樹皮の半分は、共同木材廃棄物処理施設で処理されます。

原木の積み降ろしや、製品の整理、移動、トラックでの積み降ろしなどは、すべてリフト機で迅速に処理されています。

鋸の切れ味いかんによって、製品のでき、ふできが激しく、また生産能率まで左右されるので、鋸の目立て作業は、たいせつです。

産業廃棄物が、公害につながるとして問題になっている今日、この団地では、一日四十～五十トン出る樹皮があります。この樹皮は腐らないため、捨て場がありません。そこで、各企業とも、焼却炉をもっていて、それぞれ処理しています。それでも二十～二十五トン残ります。これら樹皮は、一時間当たり三トン焼却できる共同木材廃棄物処理施設で処理されます。この処理施設は、市から補助を受けて、二千万円で、昭和四十六年七月に完成しました。

ここで生産された製品は、建築材料として、県内はもちろん、関東、長野方面にまで販路をひろげ、年間九十億円の売上げをあげ、年ねん、取扱い量も増えています。

団地全体で六百二十人の人びとが、住宅産業への貢献に生きがいをもって、毎日生産に精を出しています。

×××

次回は〝食品団地〟です。